

社会福祉法人ファミーユ高知だより

ふくらーむ

2026年 新年号 No.50

発行所 高知ハビリテーリングセンター 印刷科

新年のご挨拶

~実り、実績、充実の社会福祉法人ファミーユ高知~

2018年は、「高知ハビリテーリングセンター」(以下、ハビリ)にとって激動の一年間でした。9月には西岡由江をセンター長に任命し、新生ハビリとして再スタートを切っています。

この7年間、西岡センター長はじめ多くのスタッフが取り組んできたことが形となり、様々な「実」を結ぶ年となりました。一つ目は、ハビリ職員として誇りを持って働くことのできる組織風土の醸成と自律、自働できる人材の育成、人材が定着しやすい職場づくりができるようになりました。二つ目は、2024年度の診療報酬改定で、これまで取り組んできた高次機能障害に対する専門的な支援が評価され、健全な財務基盤の構築に大きく貢献するようになりました。三つ目は、支援の質の向上に伴って、県内外の医療機関、特別支援学校などからの紹介が増え、その人が望む地域生活につなぐ通過型施設としての役割を充分に果たすことができるようになりました、高い評価をいただくようになったことです。

2018年5月には「しごと・生活サポートセンターウェーブ」(以下、ウェーブ)が高知駅前の北本町にすばらしい事業所を立ち上げ、9月には沼慶子をセンター長に任命しました。ウェーブ本来の役割である仕事を通して障害者の生活をサポートするセンターとして、スタッフ一丸となって頑張ってくれています。

各事業所が障害者の自立という大きな目的に向かって、利用者の皆様が笑顔にあふれ、スタッフみんながいきいきと働くハビリ、ウェーブにしたいと心から願っています。これからも温かいご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



社会福祉法人ファミーユ高知
理事長 近森 正幸



社会福祉法人 ファミーユ高知



●高知ハビリテーリングセンター

〒781-0313 高知市春野町内ノ谷63番地6
Tel (088) 842-1921 Fax (088) 842-2601

◇障害者支援施設

- ・施設入所支援事業
 - ・短期入所支援事業(空床型/併設型)
 - ・自立訓練事業(機能訓練/生活訓練)
 - ・生活介護事業
- ◇アルベーテ
- ・就労継続支援B型事業
 - ・就労移行支援事業(休止中)
 - ・就労定着支援事業(休止中)

◇はるのハビリホーム

〒781-0313 高知市春野町内ノ谷23番地1
・共同生活援助事業



●しごと・生活サポートセンター ウェーブ

〒780-0056 高知県高知市北本町1丁目8-7
Tel (088) 820-1221 Fax (088) 820-1223

◇就労継続支援A型事業「オウンパス」

◇就労継続支援B型事業「スウェル」

●法人本部

〒781-0313 高知市春野町内ノ谷63番地6
Tel (088) 842-1921 Fax (088) 842-5010

両センター長 新年のご挨拶



高知ハビリテーリングセンター



新年あけましておめでとうございます。昨年を振り返ると、私たちの歩みは「芽を育み」「歩を進め」「絆を深める」一年でした。教育目標「誰かの人生について本気で考え・行動できる人になる」は、掲げてから5年を経て職員の心にしっかりと根付き、支援の質を高める芽となりました。就労移行支援の機能を他事業に統合し、復職・再就職を目指す支援を強化したことは、利用者の未来に新しい芽を生み出す取り組みでした。さらに、国土交通省の社会復帰促進事業への採択は、地域連携やネットワーク構築の積み重ねが社会復帰に結びついた証であり、確かな歩を刻んだ成果です。さらに、自立訓練事業では稼働率100%を維持し、報酬改定への対応も着実に進め、経営の安定を確保しました。一方で、物価高騰や人材不足への対応として処遇改善手当を引き上げ、職員が安心して働く環境づくりに努めました。静かな一年の中で支援の質と組織力を濃縮し、未来への準備を整えたことは、利用者・職員・地域との絆をさらに強める結果となりました。

高知ハビリテーリングセンター
センター長 西岡由江

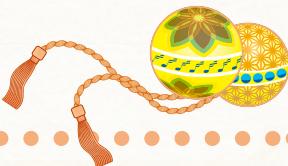
2026年は、地域創成型・未来を拓く福祉事業への転換を進める年です。「地域みらいづくり推進部」を創設し、障害の有無にかかわらず誰もがその人らしく暮らせる地域づくりに挑戦し、公益法人としての責務を果たしてまいります。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



しごと・生活サポートセンター ウェーブ



しごと・生活サポートセンター
ウェーブ
センター長 沼 慶子



転機を好機に

昨年のしごと・生活サポートセンター ウェーブ（以下ウェーブ）は、2013年以来続けてまいりました指定特定相談支援事業を閉所し、就労継続支援A型・B型事業に特化するという大きな決断と変化の年となりました。これまで同じ建物の中に相談支援事業所があることで、何かあればすぐに顔を合わせ、情報を共有できるという安心感がありました。その体制が変わることに対し、利用者やご家族の中には、戸惑いや不安を感じられた方多かったです。しかし、この大きな変化は、ウェーブが就労支援のプロフェッショナルとして、より質の高い支援を提供していくための前向きなステップでもありました。現在は外部の相談支援専門員の皆様と連携する形をとっていますが、外部だからこそ見える客観的な視点や、専門的なアドバイスをいた

だけるようになり、支援の幅がこれまで以上に広がっていることを実感しています。職員一人ひとりも、利用者の働く喜びをどう支えるかという原点に立ち返り、全員で就労について深く考え、議論する機会が増えました。新しい相談体制にまだ慣れないという方もいらっしゃるかと思いますが、私たちはこれまでと変わらず、いえ、これまで以上に皆様の心に寄り添い、地域の関係機関と手を取り合って、一人ひとりの思いを支えていきたいと考えております。

2026年の干支は午（うま）です。午年は、これまでの努力が形となり、新しい方向へと進む転機の年とも言われます。どのような変化の風が吹こうとも、ウェーブが皆様にとって、ホッと安心でき、明日への活力が湧いてくるような場所であり続けられるよう、歩みを止めることなく精進してまいります。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2025年度 障害者虐待防止に係る法定研修を開催しました



今年度の法定研修は、淑徳大学副学長・教授の鈴木敏彦先生を講師にお迎えし、9月27日に開催しました。

した。今回の研修は、意思決定支援のさらなる理解と実践の深化を図ることを目的に、法人内だけでなく、県内の福祉・医療関係機関にも呼びかけ、多くの方々にご参加いただきました。

鈴木先生の講演の中で、「意思決定」と「虐待防止」という2つの取り組みには相互関係があり、



この度、クリーニング師国家試験に無事合格いたしました！これもひとえに、皆様の温かいご支援のおかげと心より感謝申し上げます。

この資格は、クリーニングに関する専門的な知識と技術を持つ証。お客様の大切な衣類を、より安心してお預けいただけるよう、日々磨いてきた成果です。

これからは、このクリーニング師としての知識と経験を活かし、素材の特性を見極め、汚れをしつかり落としながらも、衣類を長持ちさせる丁寧なクリーニングを利用者と共に心がけてまいります。



就労継続・地域部 大原聰一郎

春野町文化祭出展！

生活介護の活動で製作したSDGsキルトアートの展示を見に行きました。SDGsキルトアートとは、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けたメッセージやテーマを、キルト（布を重ねて縫い合わせる手芸）という芸術形式で表現する取り組みです。不要になった端切れが季節に合わせた温かい作品へと生まれ変わり、一つひとつに個性が光っていました。手分けして取り組んだ工程を思い返すと、仲間と協力して仕上げた喜びが深く感じられます。作品を前に、物を大切にする心

本人と支援者双方の間に信頼関係を築きながら、対等な立場で向き合っていかなければならないことを学びました。また、福祉の他にも、医療や成年後見制度における意思決定支援ガイドライン等がすでに制定されており、今後は意思決定支援の質の向上がより一層重視されるのではないかと思いました。

難しいテーマでしたが、支援者が意思決定支援を行う上で、「利用者の笑顔は支援者の笑顔から」という先生のことばを思い出しながら、今後も日々の実践について問い合わせていきたいです。

生活・訓練部 谷岡真代

医療と音楽のつどい

昨年に引き続き今年も「医療と音楽のつどい」に参加してきました。今年はフットケアに加え、ハンドマッサージ、カラーコーディネイトを新たに加え、地域住民の皆様と温かな交流が生まれました。昨年好評だったフットケアに今年も立ち寄ってくださった方、おしゃれに関心をお持ちのご高齢の方、子供からスタッフまで立ち寄って下さり、皆様との会話も弾みました。「痛みが楽になった」「歩きやすくなりました」などのお声もいただき、充実した1日となりました。

生活・訓練部

大上美幸



や創作の楽しさを改めて実感できる、充実した時間となりました。

生活・訓練部 大上美幸



秋祭り

11/9 (日) 秋祭りを開催しました！

朝からあいにくの雨…でしたが、午後からは晴れて気温も上昇。来場者、利用者、職員のたくさんの笑顔を見ることができた一日となりました。

飲みもの
どれでも 100円!!



いっしょ
いっしょ
いっしょ
いっしょ
いっしょ

がんばれ～



“ハビリB型的”

SDGsへの参画の道、第一歩

高知で地域完結型のリサイクル事業を立ち上げる際、単なる外注先ではなく共に地域の未来を創るパートナーを求めていました。ファミーユさんの確かな技術力と、働く人を大切にする理念に惹かれ、協働を決断。今では月100台以上を共に処理しています。

株式会社弥生インフォテック 代表取締役社長 坂井寿弥 様



『廃棄パソコンを再生可能資源へ』と就労継続支援B型・軽作業②で解体作業を受注しています。

廃棄物とはいえ機械。「できるかな…」と恐る恐る挑戦。「私ここやるよ」とお互いに得手不得手で作業を協力し合い、日頃は寡黙な利用者も「これできた」の言葉と共に充実の笑顔。胸に眠る職人魂を刺激され、活き活きと取り組まれています。

就労継続・地域部 野本生子



リハ研発表に 挑戦!!

この度、全国リハビリテーション研究集会2025 in 愛知に参加し、ハビリから2名発表を行いました。

多くの聴講者に理解して頂くために発表準備には試行錯誤を重ね、苦労もありましたが、無事発表を終える事が出来ました。

発表テーマ	
土居 文佳	音楽の力でコミュニケーションを変える ～音楽療法を開始して～
井上 颯星	生活訓練ができること ～支援のヒキダシ～

私たちの支援の取り組みとその成果を多くの皆さんに共有する貴重な機会となりました。

また、他施設の発表、施設見学を通して多くの刺激を受けたとともに、日々自分たちの行っている支援の方向性が間違っていないことも確認出来ました。

生活・訓練部
井上颯星



利用者さんの夢がふくらむ



この度、私はたたみマイスターの試験に合格しました。オウンパスに入って3年半が経過しますけれど、自分にとって47歳で人生初の資格を取得しました。

そのマイスターを取得後、自分はルミエのたたみを自分以外でたたんだ人の物をチェックしています。

12月に入るとJA春野でのきゅうり作業も始まって、自身3期目のJAは緊張する事無く順調に頑張っています。

プライベート面ではイオンにある映画館を観に行ったり、ホロライブなどのアニメグッズを集めたりするのも好きです。 オウンパススタッフ 中西良仁



私は多くの先輩や後輩達に支えられ利用を開始して13年目になります。今では仕事にリラックスしてマイペースに取り組めることに感謝して日々を過ごしています。定年まで働きます。

私は幼少の頃より、動く機械には何でも興味を持ち触れたいと思っていましたが、工具を使うのは危ないと止められていました。PC解体の仕事が始まり、今、私は工具を使って作業ができます。それが嬉しく、やりがいになっています。

また、土曜日に父と一緒に鏡川の周り2.2kmを70分かけて歩いています。そしてハビリの廊下を歩く時は、転ばないように気を付けています。毎日、とても充実しています。

就労継続支援B型 利用者 友永絢子

第4回

ウェーブフェスティバル

2025年11月15日、日頃から仕事を頑張っている利用者へ感謝の気持ちを込めて…今年もやりました！第4回ウェーブフェスティバル！参加する利用者や家族に楽しんでいただけるように出店ブースは盛沢山。食べ物はやきそば・豚汁・たこ焼き・牛串を出店し、レクリエーションは魚釣り・じゃんけんゲーム等色々。中でも一番の盛り上がりを見せたのがSwitchのマリオパーティーイベントでした。ボタンを連打したりコントローラーを回したりと操作方法はシンプルですがトーナメント戦にしたことで参加者の皆さんには優勝を目指して真剣に取り組んでいました。「楽しかった」「おいしかった」「元気がでた」等喜びの声が沢山聞かれた楽しいフェスティバルになりました。

イベント委員 齊藤章人



新しい洗濯機乾燥機が

オウンパス にきました！



2025年8月に新しい洗濯機と乾燥機が搬入されました。洗濯機は以前から使用しているものと大きな違いはないですが、洗剤投入口に蓋がついており水はねを防いでくれる小さな心遣いがあります。新しい乾燥機の方は、大きな変化がありタッチパネルを導入しており、細かく温度調節や回転の仕方など設定することができます。新しい洗濯機乾燥機を使い、収入を増やし利用者が安心し働き続ける場所になるよう精進していきたいと思います。 オウンパス 川村健太



ウェーブでは週5日午前2時間、近森リハビリテーション病院周辺を中心に利用者7名が雨の日も風の日も清掃作業に取り組んでいます。

梅雨時の合羽を着てのサウナのような蒸し暑さもさることながら、史上最も暑い夏となった今年は10月まで空調服が手放せませんでした。そのような過酷な気象の中で大汗を搔きながらゴミを拾い落ち葉を掃き集めている姿に通りすがりの人から「いつもありがとうございます」「熱中症に気をつけて」などの声は利用者の励みとなっていきます。



また、利用者からも「工賃が増える嬉しい」「いっぱい落ち葉があったら掃くのが面白

い」など意欲的な声も聞かれます。

しかし、利用者の体調不良や退所が続き参加を募っても新たな希望者がいないことが課題となっていました。

そのような中、今年度入所した若い利用者に道路清掃への呼びかけを行ったところ、男女1名ずつが名乗りを上げてくれました。現在、体験を積み重ねており、1月には正式にメンバーに加わる予定です。

若い力とベテランの力を合わせて、より一層丁寧な清掃を心掛けていきたいと思います。

 スウェル
井上あゆみ


ハロウィンイベント2025

今回、生活訓練が担当したハロウィンイベント！企画段階で様々なアイデアが出て、多くの方に協力いただきて楽しいイベントとなりました。センター長や部長も巻き込んだ「占いコーナー」、景品盛りだくさんの「ミニゲームコーナー」、利用者の協力を得た「ピアノ演奏」に加え「竹灯り」や「お化けツリーの飾りつけ」、「職員の仮装」など、準備は大忙でしたがとても楽しいイベントとなりました。

生活・訓練部 橋本竜太



高知県社会福祉大会会長 『感謝』をいただきました



2025年11月19日、皆さんに支えられ、ありがとうございました。これからもハビリ、ウェーブとともに励んでまいります！ ウェーブ センター長 沼 慶子



施設間交流



2025年8月から10月にかけて、3か所の自立訓練施設を見学しました。広島県あけぼの、かがわ総合リハビリテーション成人支援施設、兵庫県自立生活訓練センターの皆様には施設見学や意見交換会の貴重な機会をいただきました。どの施設も大変好意的に迎えてください、自立訓練の実際の支援内容や、工夫を凝らした取り組みについて丁寧に紹介いただきました。特に利用者の主体性を引き出すための関わり方や、高次脳機能障害者への支援の工夫などご教示いただきました。日々の支援に直結する多くの学びの中のいくつかは、実際の支援に取り入れ、業務改善に結び付けることができました。なお、10月30日にはあけぼのから当センターへ訪問があり、相互の職員間交流を深めることができました。

生活・訓練部
島崎義広



第2回 地域連携推進会議開催

2025年11月18日に第2回地域連携推進会議を開催しました。当日は利用者、利用者家族、地域の方、行政含め8名の方に参加していただき、施設見学として利用者の居室を含めた生活の場・日中活動の様子を見てもらった後、2024年度の事業報告をもとにハビリの取り組みをお伝えさせてもらいました。会議は堅苦しいものではなく、利用者の生活の様子や施設のことを知てもらい率直な意見をいただくことを目的としています。良い面だけでなく課題もお伝えさせていただきましたが、参加者からたくさんの質問や感想、参加できてよかったという声をいただくことができ目的を達成できる良い会議となつたと感じています。

就労継続・地域部 山田千菜



内ノ谷天満宮の神事に 参加しました

11月3日、内ノ谷天満宮の神事に参加しました。

当日はさわやかな秋晴れでした。神事は巫女の舞いの奉納から始まり、出番では天狗に扮し、神社からの参道を神輿の前を歩きました。

最初は子供たちが怖がるかと思いましたが、近くに寄ってきて、鼻を触らせて、と言ってたり、衣装を触ったりと意外と人気でした。(獅子舞の人気には負けましたが…)

獅子舞は神輿の後ろを歩きながら子供たちに囲まれつつ、子供たちの頭を噛んでいました。(縁起が良いとされていますね)

その後再度舞いを奉納して、参道を神輿と共に神社に戻り、神事は無事終了しました。

貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

生活・訓練部 浅川哲也



季節の花

一年の幸福をもたらす年神様は、依り代（よりしろ）である



松を目印にして降りてこられます。依り代とは神靈が依りつく対象物ということで、神様は松が大好きなのです。古くは平安時代にさかのぼり初めは松だけを玄関先に飾っていたそうです。室町時代からは長寿を意味する竹も一緒に飾るようになり、門松の原型となったようです。我が家も小さな門松を準備して年神様をお迎えします。

松、竹、梅、ウンリュウヤナギ、マムピオニー（染め）、葉牡丹、シンビジウム、グロリオサ、南天、千両、ドラセナ

生け花担当職員 小松 香



祝 50号!!

このたび、当法人の広報誌は創刊50号を迎えることができました。長年にわたり発行を支えてくださった利用者の皆さん、ご家族、地域の方々、そして職員の皆様に心より感謝申し上げます。創刊以来、広報誌は施設と地域をつなぐ架け橋として、多くの笑顔や想いを紙面に届けてまいりました。これからも、皆さんの日常の輝きや活動の様子を丁寧に発信し、読んでくださる方々に温かさと元気をお届けできるよう、編集部一同努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

ふくらーむ委員長 橋本竜太

利用状況

ハビリテーリングセンター

○2025年11月の見学件数 20件

○11月の1日あたりの平均利用者数
(小数点第二位以下は四捨五入)

自立訓練

・機能訓練(定員20名) ... 20.3名
・生活訓練(定員6名) 7名

生活介護 (定員14名)

..... 10名

施設入所支援 (定員40名)

..... 37.2名

アルバー

・就労継続支援B型(定員40名) 39.6名
はるのハビリホーム(定員36名)
・グループホーム 29.8名

ウェーブ

○2025年11月の見学件数

オウンパス 0件
スウェル 3件

○11月の1日あたりの平均利用者数
(小数点第二位以下は四捨五入)

オウンパス(定員10名) 7.5名
スウェル(定員40名) 38名

編集後記

2025年は「昭和100年」にあたる節目の年でした。

万博開催・スポーツでの活躍など嬉しい出来事の反面、経済の変動・記録的な猛暑・熊被害の増加などは人々の生活にも影響を与えました。

多くの社会的変化や科学技術の躍進は目覚ましく、忙しない日常ですが古き良き昭和を懐かしみつつ温かい気持ちを持って過ごしたいものです。

2026年は開運の年と言われています。

「日々是好日」と願います。

A・I